

「脱炭素社会実現」を目指す提言誌
CO₂削減と新・省エネビジネスを推進する

MARCH 2020

No.66

隔月刊

地球 温暖化

Prevention of Global Warming

3

特集

温暖化から気候危機へ



#TiempoDeActuar



COP25
CHILE
MADRID 2019



#TimeForAction

スペシャルインタビュー

金融機関の枠を超えた社会貢献を

城南信用金庫 理事長 川本 恭治氏

話題

自立化が加速する 再エネ固定価格買取制度

2020 NEW 環境展 2020地球温暖化防止展

4月22日(水)~24日(金)開催! 場所:インテックス大阪

共生力×地域力~東日本大震災から復興まちづくりへ

アルミ端材からの水素生成 市場拡大に期待が持てる“質”を確認

アルハイテック(株)

廃アルミを原料とした水素生成を手がけるアルハイテック(富山県高岡市)は、アルミを製造品の原料・素材として使用するメーカーから、さまざまな端材形状、使用状況による確認検査を受注してきた。同検査を各社1~3年にかけて継続する中、再生率や再生品の質、CO₂排出量などといったライフサイクルアセスメント(LCA)につながる評価が明らかになってきた。設備導入の優位性を裏付けるデータとして活用していく考え。

同社が展開する水素製造の特徴は、原料

をアルミ端材としていること。アルミ箔タイプの飲料容器では、パルプ・オイル・水酸化アルミの抽出から、発生させた水素で燃料電池発電を行うなど、一連した水素製造プラントを整備できる技術を有する。

2017年にオンサイト型の小型水素発生装置「エ小僧」を実用化させ、レンタル展開する一方、大容量の需要に応じた検査事業を行ってきた。素材の状態に応じた装置の最適化のみならず、水素の生成過程で取り出される副生成物の質が安定化することで、事業採算性が大幅に向上しそうだ。🔋